わの川だより

あおもりの川を愛する会

わの川だより 第19号

発行日:平成27年3月31日

「堤弾正による荒川開削の伝説」

青森県県土整備部河川砂防課長　今　　孝治

初めて河川砂防課に配属されたとき、上司から堤弾正による堤川（荒川）付け替えの話しを聞く機会がありました。そのときは、堤川にはそんな歴史があったのかと、特に疑問も持たずにそのまま忘れてしまいました。

その後、たまたま手に取った「青い森と堤川」という本に同じことが書いてあり、もしかしたら本当にあったのかなと思いましたが、そのときもそれ以上調べることもなく、記憶の片隅に埋もれてしまっていました。この話を知っている人も結構いるとは思いますが、知らない人のためにその内容を簡単に記しておきます。15世紀末堤浦に入部した南部光康は横内城を築き、初代堤弾正として城の防御のためさらに秘策を練った。この当時荒川（堤川）は、駒込川と合流しておらず、うとう沼に注いでいた。弾正は荒川を北側の外堀とするため、荒川を開削して駒込川に合流させたというものです。

この話にはさらにもっともらしい尾ひれがついており、荒川の開削で八つの橋を架けたことから八橋に、土居（土手）を築いた所が筒井に、川に船を浮かべ花見をした所が桜川になったと、地名の由来が記されています。

この話が事実かどうか確認するため、「新青森市史」をひもといてみましたが、堤弾正による横内城の築城については述べられているものの、荒川開削の話は一切出てきません。

そこでさらに調べてみると、駒込ダム建設所が発行しているダム新聞でこの話が取り上げられており、荒川開削には400万立方メートルもの土砂の掘削が必要になること、旧河道の痕跡がないことなどを指摘しています。ダム新聞では明確に否定していませんが、当時の土木技術、資金などを考えれば、荒川開削は作り話ではないのか・・・

もやもやした気持ちのまま、さらに新青森市史を読み進んでいくと、「荒川開削は安潟が小さくなったことを説明するための仮説であり、この仮説は否定されているが、市民の間ではおなじみのエピソードである。」と記されていました。あっけない結末となってしまいました。

さらに、青森市のホームページにある「あおもり歴史トリビア」では、荒川開削説を否定した上で、その根拠の一つとして「近年、土木の視点からメスが入り、荒川流域の自然地形が改変された形跡はない」と言っているのである。もしかしたら、ダム新聞からの引用でしょうか。

目次:

「堤弾正による荒川開削の伝説」	P1
平成26年度活動報告 堤川を愛する会	P2
平成26年度活動報告 サークル「母なる川」	P3
平成26年度活動報告 ジョイリバーおいらせ	P4
平成26年度活動報告 親しめる川づくりサークル	P4
総会・講演会	P5
十川源流の地	〃
河川技術講演会	P6
蔦川清掃活動	〃
イワナ産卵床づくり	P7
歩いて渡る高速道 岩木川にかかる大橋	〃
親子が参加する浅瀬石川自然学習会	P8
平成27年度あおもりの川を愛する会総会のご案内 事務局より	〃

ハイライト:

・利根川東遷に匹敵？（P1）

・イタリア人の個人名！（P3）

・歩いて渡る高速道！（P7）

残念なことに荒川開削、つまり堤川の付け替えは史実ではありませんでした。史実であれば、利根川東遷に匹敵する大事業だと思われますが、それにしても青森県人の想像力の豊かにただただ感心するばかりです。

堤川の歴史は水害の歴史でもあります。特に昭和44年の大水害は記憶している人も多いことでしょう。県では、昭和43年度から堤川の治水対策を進めてきました。下湯ダムと横内川遊水地はすでに完成し、下流の市街地を洪水から守っています。河川改修についても一二年のうちに完了する見通しとなっています。今後は一日も早く、駒込ダムが完成し、青森市が水害のない街になることを願って拙文を終えることとします。

●堤川を愛する会　平成２６年度活動報告

サークルリーダー　佐藤　信一

平成26年、新緑眩しい時期（5月頃）前年度迄実施されて来た青森市企業局水道部主催の「天田内地区植林事業」が前年度で終了したため、今年度の「少しは社会貢献」は休止する事となりました。　しかし、前年度までの上記活動実績（10数年間）が青森市より『植林事業協力者』として認められ、10月15日に感謝状を頂戴致しました。堤川を愛する会メンバー一同、まさに集大成が結実した感を覚えました。

一方、活動基本方針の「川と遊び」では恒例のハゼ釣りを開催いたしました。

9～10月にかけて、メンバーによる事前調査・参加者の都合を見計らい、11月11日午後から行われました。天候にも恵まれ参加者7名で行いましたが、釣果は寂しく外道のボラだけのため、竿安めで一部のメンバーと堤川支流・駒込川へ白鳥の探勝をいたしました。穏やかな午後、羽を休める白鳥に出会い自然の営みに感動し、釣り場に戻った所、待望のハゼが一匹　釣り上っておりました。

その後、竿先へのあたりは無く夕刻の納竿となり、全員が餌を堤川に寄贈して参りました。

夕方からの懇親会は9名の参加となり貴重な釣果（刺身）を全員で分け合いながら、釣り・白鳥・自然への感謝等様々な話題で盛り上がり、来年度への期待を膨らませながら散会いたしました。

当会は「川と遊び、川に学び、少しは社会貢献」を活動基本方針としておりますが、今年度を反省すると、「川と遊び」以外の活動が低調だったように感じております。来年度は従来通り、メンバー並びに関係者の御支援のもとに更なる活動を展開し、「堤川との戯れ」を楽しんで参りたいと思っております。今後もメンバー以外の方々への行事案内を発信して行きますので宜しくお願い致します。

●サークル「母なる川」　平成２６年度活動報告

サークルリーダー　和島　隆志

サークル「母なる川」では２０１４年度の活動として、2014年6月にイタリアの「テヴェレ川」と「アルノ川」を視察してきました。

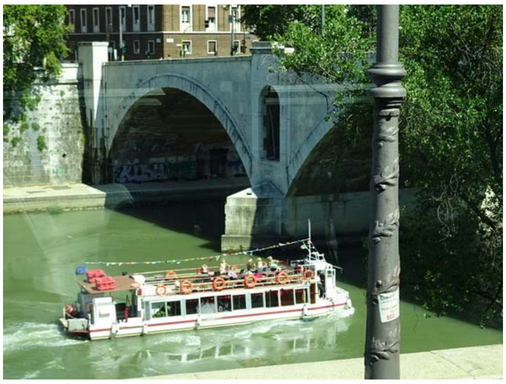
「テヴェレ川」はローマ北部アペニン山脈を源流とし、トスカーナ州、ウンブリア州を経由し、ローマ市街を流れラツィオ州でティレニア海に注いでいる。流域面積は約17,400㎢で国内２番目、長さ約405㎞で国内では３番目に長い河川。

歴史的にみれば、北方からイタリア半島に移動してきた民族がテヴェレ川河岸に定住して、ローマという街が発展したと考えられている。

「アルノ川」はイタリア中部ファルテローナ山を源流とし、フィレンツェ市街を流れティレニア海に注ぐ。流域面積は約8,200㎢、長さ約241㎞の河川。

フィレンツェ市内のアルノ川に架かるヴェッキオ橋はフィレンツェ最古の橋であり、先の大戦を生き延びたフィレンツェ唯一の橋である。

テヴェレ川（ローマ市街）



テヴェレ川（ローマ市街）

歴史的な背景を感じずにはいられない今回の二つの河川。

かのローマ皇帝「ティベリウス」やイタリア人の個人名「ティベリオ」はテヴェレ川が由来になっているという。

また、メディチ家の専用通路が建設されたアルノ川のヴェッキオ橋はオペラや小説の舞台としても広く知られていて、東京ディズニーリゾートの橋「ポンテ・ヴェッキオ」のモデルにもなった橋である。

テヴェレ川が流れるローマ市街も、アルノ川が流れるフィレンツェ市街も歴史地区としてユネスコの世界遺産に登録されていて、それぞれの川と市街地の佇まいに、これまでの時の流れが偲ばれた今回の視察でした。

アルノ川（フィレンツェ市街）

アルノ川（フィレンツェ市街）・ヴェッキオ橋

●ジョイリバーおいらせ　平成２６年度活動報告
サークルリーダー　中野渡　悟

毎年のことながら私たちの活動は奥入瀬川の源流域におけるブナの植樹と川下りである。
今年度は２６年６月２１日（土曜日）に植樹、７月２６日（土曜日）に川下りを実施いたしました。今年は黒石市市政５０周年の記念に浅瀬石川での川下りを実施するためその準備でかなり忙しく７月２１日の川下りはほとんどぶっつけ本番となりました。しかし、いつもどおり「おいらせ知の会」との共同開催なので何とか無事に実施することができました。
本当に感謝感謝であります。惜しむらくは準備不足から例年に比べ参加人数が少なかったことや子供の参加が減少気味なことです。地域の子供の減少を感じることが多くなった気がします。

●親しめる川づくりサークル　平成２６年度活動報告
サークルリーダー　南　直之進

平成26年7月19日に岩木川の河川敷において中弘南黒建設協会と一緒に「川でふれあい建設フェア2014」を開催しました。
自然に触れ合う機会が少ない子供たちが、親とともに川に触れ合える機会を設けるために魚のつかみ取り競争と、建設業を身近に感じてもらうために建設機械の展示と・試乗体験を行いました。
当日は多くの家族連れが訪れ、用意した500匹のニジマスを悪戦苦闘しながら、歓声を上げて楽しそうに追いかけたり、高所作業車やタイヤショベルなどの建設機械も人気があり、特に高所作業車は長蛇の列となりました。参加した子供たちは皆すごく楽しかったと言っていたので、次年もまた企画したいと思っています。

●平成２６年度　総会・講演会

あおもりの川を愛する会　事務局

＜平成26年5月17日（土）於：アラスカ＞

平成26年5月17日（土）平成26年度総会をアラスカ会館に於いて開催しました。当日は日本河川協会の専務理事青山俊行氏に来て頂きご挨拶を頂きました。
総会終了後、鹿島建設㈱環境本部 環境施設グループ担当部長　阿部芳久氏が講師となり、「水を考える」という演題で講演をして頂きました。（参加者40名）

日本河川協会　青山俊行専務理事

鹿島建設㈱　阿部芳久氏

●平成２６年度　　十川源流の地

あおもりの川を愛する会　事務局

平成２６年７月１５日に２６年度事業のひとつであります、標柱の建立を黒石市大字上十川字長谷沢に流れる十川の源流の地に標柱を建立しました。同会は毎年１ヶ所、源流の地の標柱を建立しており、今年で9柱目となりました。
　参加者２９名は、同日、午前10時30分黒石市役所に集合して頂きました。建立地まで車で20分くらいの距離を相乗りし向かいました。この日は良き天候に恵まれ作業するにはとても良く、また、多少気温は高めでしたが、参加者はスコップ、ツルハシを交替で持ち作業しました。参加された方々、暑い中の作業お疲れ様でした。（参加者29名）
＜実績：大畑川、野辺地川、蟹田川、田名部川、土淵川、
　　　　天田内川、浅水川、鳴沢川＞

●平成２６年度　河川技術講演会

あおもりの川を愛する会　事務局

平成26年7月30日に黒石市高樋市長挨拶を始めとして黒石市津軽伝承工芸館で「河川技術講演会」が開催されました。

青森河川文化講演会は平成１０年から開催され今回で１７回目となります。

講演会の内容は「地すべりのメカニズムと災害防止技術」講師弘前大学桧垣大助教授より講演をして頂きました。二人目は「河川における諸問題と解決の方向性」の演題で東北地方整備局　宮﨑伸一郎河川保全管理官が行いました。

最後は三村申吾知事にご挨拶を頂きました。（参加者271名）

三村申吾知事

●平成２６年度　蔦川（つたがわ）清掃活動

あおもりの川を愛する会　事務局

＜平成26年9月6日（土）　於：蔦川＞

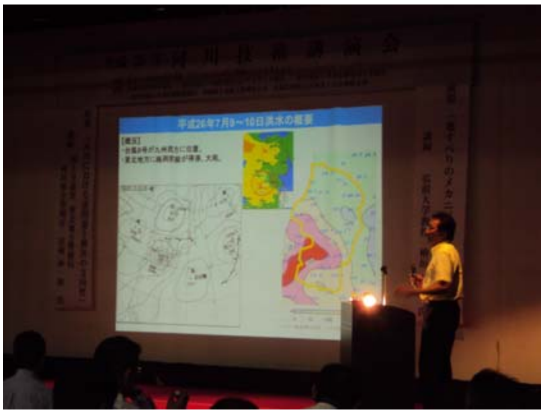
第12回目となります蔦川（旧十和田湖町）の清掃活動を行いました。作業前に分別袋を渡し会員、焼山町会長ほか約70名参加されごみ拾いを行いました。

出逢い橋が工事の為、上流へ1.5kmの距離と範囲は狭くなりました。川岸・道路沿いには相変わらずジュースの空き缶・タバコの吸殻等落ちていました。それでも毎年行っている継続の成果でゴミは年々少なくなってきています。

当会としまして年１回の清掃・美化活動ですが、今後も継続し蔦川渓流に来て頂いた人に奇麗な川を見て頂きたいと考えております。（参加者70名）

講師　桧垣大助教授

講師　宮﨑伸一郎河川保全管理官



佐々木幹夫会長

上北地域県民局　奈良岡次長

●イワナ産卵床づくり
あおもりの川を愛する会　事務局

＜平成26年10月7日（火）於：蔦川小渓流＞

平成26年10月7日蔦川の小渓流に今年で8回目になります「イワナの人工産卵床」を２ヶ所設置しました。（参加者11名）
１ヶ月後、産卵の状態を調査しましたが台風、大水の影響で産卵床に泥など覆い確認できませんでした。

産卵床

●歩いて渡る高速道岩木川にかかる大橋
あおもりの川を愛する会　事務局

＜平成26年10月26日（日）於：五所川原市＞

平成26年10月26日に「歩いて渡る高速道岩木川にかかる大橋」事業を開催いたしました。11月3日に開通する津軽自動車道五所川原西バイパスの岩木川に架かる「奥津軽大橋」は自動車専用道路の一部となっています。開通すると歩くことはできないので、歩いて橋からの眺めを楽しむという趣旨で行いました。渡る前に国土交通省青森河川国道事務所の船水義一課長に同バイパスの概要を説明して頂き、青空の下、家族連れなど参加者は岩木山を正面に五所川原側から橋を渡りました。当日は天候も良く橋の上から岩木川・岩木山の景色がとても良く見えました。（参加者24名）

佐々木会長挨拶

参加者

●親子が参加する浅瀬石川自然学習会

あおもりの川を愛する会　事務局

＜平成26年8月23日（土）　於:黒石市＞

平成26年8月23日に黒石市の浅瀬石川ダムで「浅瀬石川自然学習会」が開催されました。 参加した親子連れが河川の有する機能や河川愛護の重要さ大切さを学びました。予定していました学習会は当初、ボート６艘による浅瀬石川を下る計画をしていましたが、前夜から降り続いた雨で川の水量が増した為、急遽、浅瀬石川ダムの見学に変更しました。参加した親子２０名はダム堤内のエレベーターで約100ｍ下の基礎監査廊まで下がり見て回ったほか、資料館内ではダムの役割や河川・砂防事業の重要性について学びました。見学の後、会員が焼き上げた直径１ｍのアップルパイを参加者全員に配り、子どもたちから「うまい～」と声があがっていました。（参加者48名）

●平成２７年度　あおもりの川を愛する会総会のご案内

あおもりの川を愛する会　事務局

平成２７年度の総会を５月１６日（土）に予定しております。総会後には、朗読会の開催も予定しております。詳細につきましては、後日改めてご案内いたします。ご繁忙中恐縮に存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

●あおもりの川を愛する会　事務局より

「あおもりの川を愛する会」は今年で17年目を迎えました。会員数は現在１９５名となっています。今年度も、会員の協力のもとさまざまな活動を行なう事が出来ました。これからも会の活性化が図れるよう、頑張って行きたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

あおもりの川を愛する会

【事務局】　〒０３０－０１１１
青森県青森市荒川字柴田１０２番地１

TEL:017−729−0922
FAX:017−739−3561
E−mail:kon-h@nishidagumi.co.jp